

2023年 2 月16日
第44回三重大学定例記者懇談会

方言研究の面白さ

—「ささって」を題材にして—

余 健

三重大学教育学部

メール: yeoken@edu.mie-u.ac.jp

1. 私が感じる方言研究の魅力

○時代や社会の移り変わりに呼応し、ことばは常に変化しています。

私は、その変化のプロセスの動態を捉え、
そこにどのような要因が関わっているのか、
分析することに興味を持っています。
三重県の方言を考える際のキーワードである
「**ささって**」を題材にして、
方言研究の魅力に迫ってみましょう！

約50年前の方言調査の結果（A）と2021年の方言調査の結果（B）を
比較して、以下の3点が新しく確認されました。

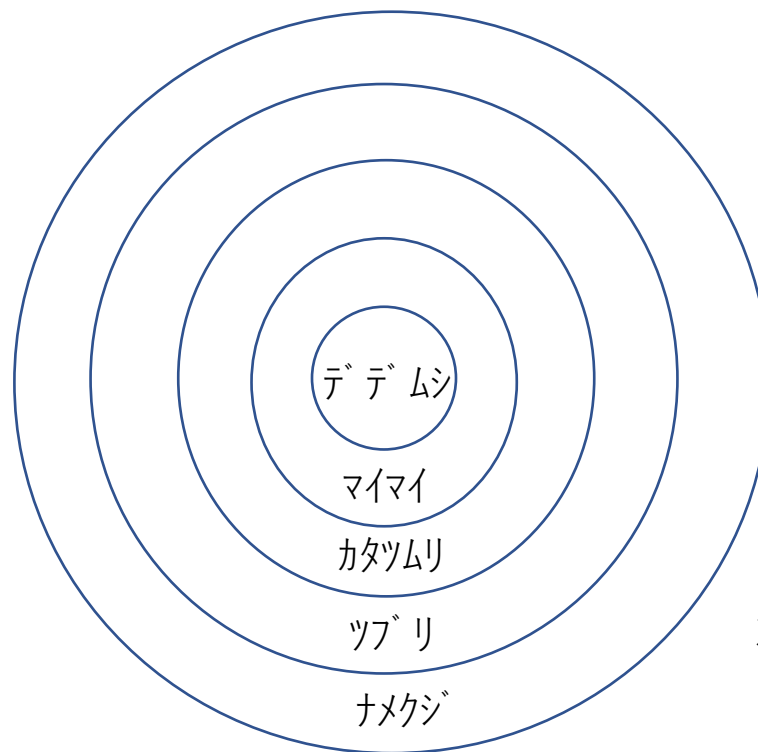
- (1) A、B共に「ささって」が3日目にも4日目にも使用されている。
- (2) (1)の共通した使用状況の背景には、異なる社会的要因が存在している。
- (3) Aの4日目に使われる「ささって」の語源は、3日目を表す「さんあさって」である。

2. 方言周圏論について(以下の話の前提)

○ 言語の歴史を考える際に、柳田(1930)の『**蝸牛考**』の中で方言周圏論が唱えられた。

「都市（中央）で新しい言葉が、次々に生まれ周辺地域に同心円状に伝播していく」

例)カツムリ (古) ナメクジ > ツブリ > カタツムリ > マイマイ > デデムシ(デンデン) (新)



左図は森下・大野(2001)より

3. 過去の全国方言調査にみる「ささって」の特徴

3-1. 概要

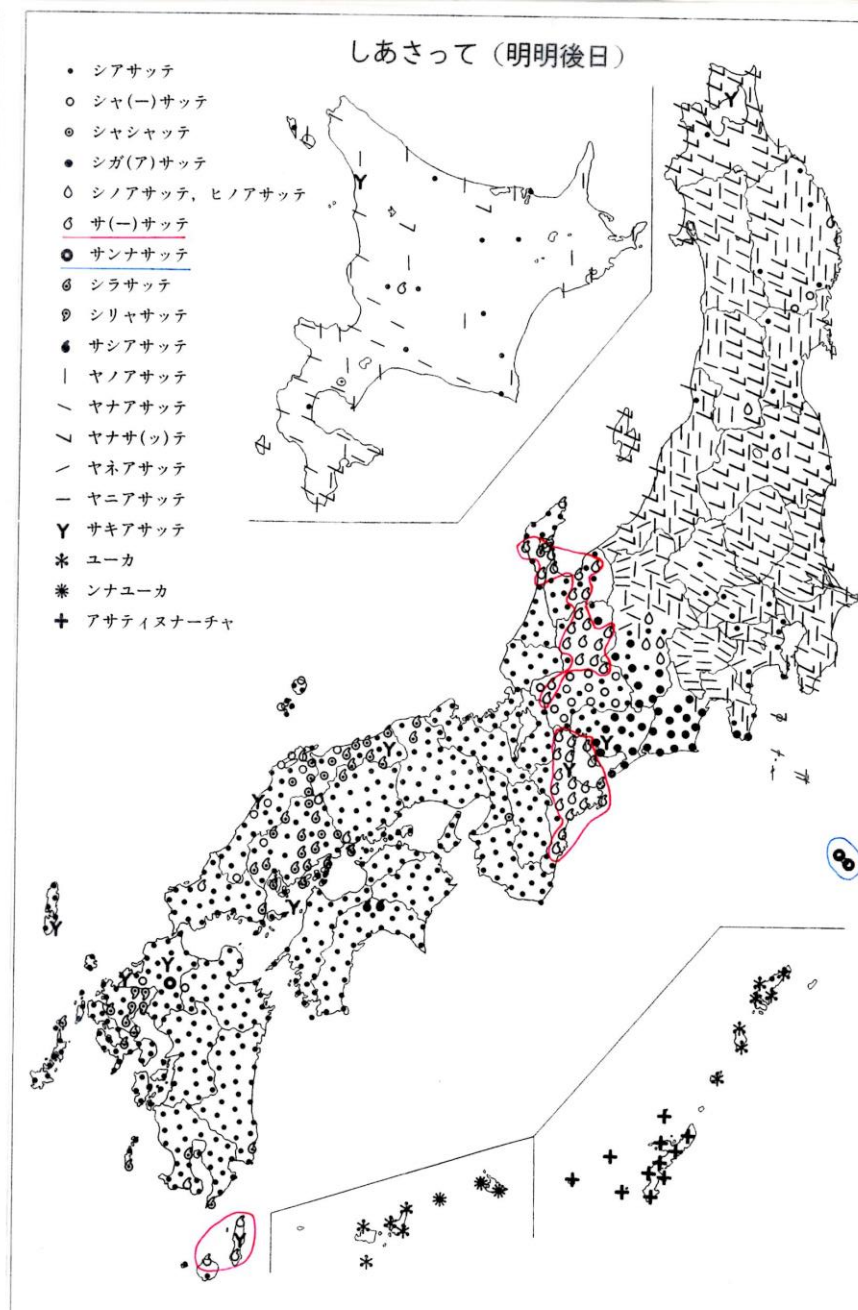
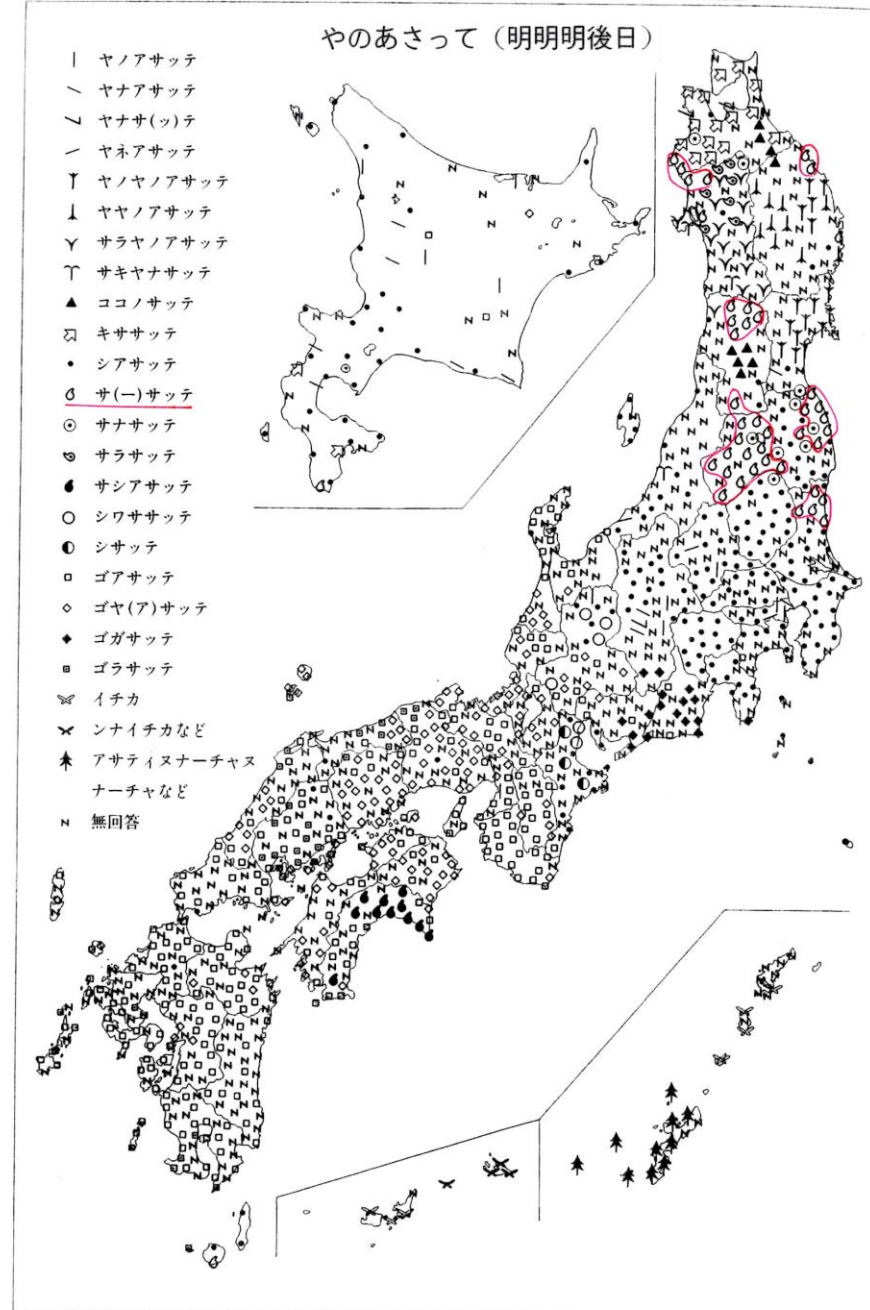
1957年から1964年にかけて、国立国語研究所により、全国2400カ所で方言調査が実施された。現在を基準にすると、110歳代後半から120歳代の方までの調査結果になる。関連する調査項目は、以下の2項目である(国立国語研究所1974)。

(a) あさっての次の日（3日目）のことを何と言いますか？

(b) しあさっての次の日（4日目）のことを何と言いますか？

→次頁の日本言語地図の編集版を参照

3-2. 「ささって」の分布(「しあさって」・「やのあさって」共に赤で囲んだ箇所 佐藤(2002)より ※大元の地図は日本言語地図)



3-3. 「ささっての」分布(約50年前の全国方言調査)から言えること

- (1) 「しあさって」の分布からは、「ささって」が三重県を中心とした東海・北陸地方と屋久島・種子島に確認される。
方言圏論より、「ささって>しあさって」が言える。
- (2) 八丈島に「**さんなさって(sannasatte)**」が確認されることから、
方言圏論より、三重県の「**ささって(sasatte)**」の先祖の語形とも言える。
- (3) 「やのあさって」の分布上で、福島県を中心に東北地方に「ささって」の使用が確認され、それらの「ささって」の周辺には「さなさって(**san**asatte)」が確認される。つまり、本来西日本の「しあさって」(**3**日目)を意味する古い語形「さんあさって(**san**・asatte)」が、人づてに周圈的に伝播する中で、「さなさって」(**san**asatte)」と上記下線部[n]と[a]連音化したことで、「**3**」の聴覚印象が薄まり、言い間違いや聞き間違いの結果、4日目の言い方が元々なかったことも相まって、「ささって(sasatte)」が4日目に定着した地域が福島県を中心にした東北地方に現れたものと考えられる。

→ 人と人との**直接的接触要因**を指摘できる

4. 三重県内・若年層対象アンケート調査(2021)にみる「ささって」の特徴

4.1 現在の三重県の若年層調査の概要

2021年度前期の余担当の授業(日本語学演習Ⅰ)において、井藤・莊司・溜淵の3名が、三重県内の言葉の使用の地域差を確認するために、3日後の言い方、4日後の言い方等の生活言葉に関するアンケート調査(Google Forms使用)を実施した。対象者はいずれも調査者の知り合いを中心とした18歳から22歳までの男女で、対象者の出身地と調査人数は、以下のとおりである。

三重県北部(桑名市～四日市市)：19名

三重県中部 (松阪市)：19名

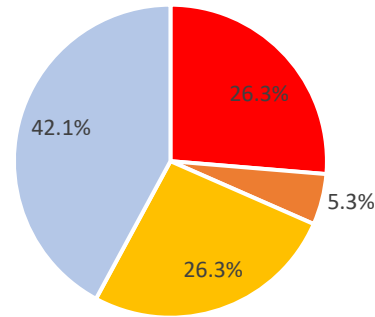
三重県南部(南伊勢市～紀宝町)：25名

三重県西部 (名張市)：9名(今回は取り上げない)

4.2 調査結果

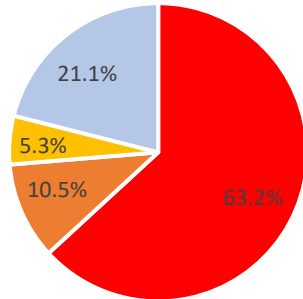
3日後と4日後の言い方 (北部・中部・南部の地域差)

3日後・4日後の言い方 北部(桑名市～四日市市)



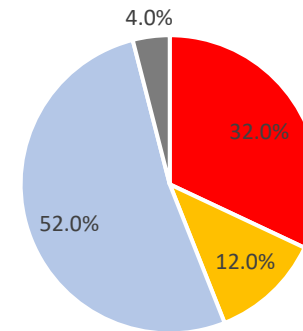
- ささって(3日後)・しあさって(4日後)
- ささって(3日後)・4日後(4日後)
- しあさって(3日後)・ささって(4日後)
- しあさって(3日後)・4日後(4日後)

3日後・4日後の言い方 中部(松阪市)



- ささって(3日後)・しあさって(4日後)
- ささって(3日後)・4日後(4日後)
- しあさって(3日後)・ささって(4日後)
- しあさって(3日後)・4日後(4日後)

3日後・4日後の言い方 南部(南伊勢町～紀宝町)



- ささって(3日後)・しあさって(4日後)
- ささって(3日後)・4日後(4日後)
- しあさって(3日後)・ささって(4日後)
- しあさって(3日後)・4日後(4日後)
- 明後日の次の日(3日後)・しあさって(4日後)

4.3 三重県内・若年層対象アンケート調査(2021)から言えること

- (1) 3日後と4日後の言い方において「**ささって**・しあさって」
は、三重県中部で約60%の回答率が確認されたのに対し、
北部と南部では、約30%の回答率にとどまる。
 - (2) 3日後と4日後の言い方において「しあさって・**ささって**」は、
北部において、最も高い30%弱の回答率が確認される。
→この「ささって」は、本来の3日目における使用が、
共通語の影響を受けて、4日後に追いやられたものと考えられる。
 - (3) 3日後と4日後の言い方において共通語の「しあさって・4日後」
は、北部に約40%、南部に約50%と多く確認される。
- (2)と(3)の共通語の影響における背景には、北部の名古屋市圏との[直接的接触要因\(通勤・通学\)](#)に加えて、
北部と南部に確認される[間接的接触要因](#)(言語形成期におけるテレビの影響、馬瀬1980)が関与している。

5. まとめ

- (1) 方言圏論に基づく三重県の「ささって(sasatte)」における語源の1説としては、本来の3日後を意味する八丈島の「さん(3)なさって(sannasatte)」から、生れたものと考えられる(2.2 日本言語地図上)。一方、福島県を中心とする東北地方では「さんあさって(san・asatte)」が連音化して「さなさって(sanasatte)」に変化したことで「3日後」の語源意識が弱まったこと等により、本来の3日後ではなく「4日後」の言い方に取り入れられた。約50年前に行われた全国方言調査の結果における上記の背景の要因としては人的な**直接的接触要因**を挙げられる。
- (2) 井藤他が2021年に行った三重県出身・若年層対象の調査結果に基づく、三重県の北部(桑名～四日市)に「4日後」における「ささって」の使用者が比較的多く確認された。この背景には、三重県北部が、名古屋市圏への通勤・通学圏にあることの**直接的接触要因**に加えて、言語形成期におけるテレビの影響による**間接的接触要因**も挙げられる。

引用文献

井藤葵・莊司ちひろ・溜淵美月(2021)三重大学教育学部日本語学演習Ⅰ(余 健担当)発表資料

国立国語研究所(1974)日本言語地図解説 各図の説明 6

佐藤亮一(2002)方言の地図帳 小学館

森下喜一・大野眞男(2001)方言探究法 朝倉書店

馬瀬良雄(1980)言語形成に及ぼすテレビ及び都市の言語の影響 国語学125

柳田國男(1930)蝸牛考 岩波文庫1980に復刊